

# 理念・方針／マネジメント

## Philosophy, Policy and Management

経営理念・経営信条 .....	006
トップメッセージ .....	007
サステナビリティ・マネジメント .....	008
イニシアティブへの参加 .....	011
マテリアリティ（重要課題） .....	013
ステークホルダーエンゲージメント .....	016
社外からの評価 .....	017

## 経営理念・経営信条

これからも事業活動を通じて社会的責任を果たします

### 経営理念

いたずらに規模のみを追わず、  
誠意と独自の技術をもって、  
広く世界の文化と福祉の向上に貢献する。  
会社に働く人々の能力開発と  
生活福祉の向上に努め、  
会社の発展と一人一人の  
幸せとの一致をはかる。  
株主、取引先をはじめ、  
全ての協力者との相互繁栄を期す。

### 経営信条

二意専心  
誠意と創意

この二意に溢れる仕事こそ、人々に心からの満足と喜びをもたらす真に社会への貢献となる。

誠意は人の道なり、すべての仕事にまごころを  
和は力なり、共に信じて結束を  
礼儀は美なり、互いに感謝と尊敬を  
創意は進歩なり、常に工夫と改善を  
勇氣は生き甲斐の源なり、進んで取り組み困難に

「他社がまねするような商品をつくれ」。これは、シャープの創業者 早川徳次のメッセージです。

このメッセージには、次の時代のニーズをいち早くかたちにした「モノづくり」により、社会に貢献し、信頼される企業を目指すという、早川徳次の経営の考え方が凝縮されています。そして、この精神は、1973年に「経営理念」「経営信条」として明文化され、創業以来100年を超える月日が流れた今日まで、脈々と受け継がれています。

「経営理念」は、シャープが目指す姿です。「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」などの言葉が示すとおり、シャープは創業当時より、社会やステークホルダーとの共存共栄を

目指してきました。この思想は、今日のサステナビリティに通じるものです。

「経営信条」は、経営理念を実現するために全社員が堅持すべき信念・考え方です。「二意専心 誠意と創意」、すなわち、徹底したお客様視点の実践と独創的なモノづくり、これが私たちの根幹です。

シャープは、これからもこの経営理念・経営信条に沿った事業活動を通じて社会的責任を果たし、信頼される企業であり続けたいと考えています。

## トップメッセージ

# 経営理念を原点とするESG経営を推進し、 サステナブル社会の実現に貢献します

代表取締役社長 兼 CEO  
沖津 雅浩



現在、当社は将来の飛躍に向けた変革を行っています。私は社長として、2024年5月に中期経営方針で示した「デバイス事業のアセットライト化」「既存ブランド事業と新産業のサイクルで創り出す成長モデルの確立」「本社機能の強化」を着実に進め、信頼の日本ブランド“SHARP”の確立に取り組んでいます。

この中の「本社機能の強化」において重点施策の一つに挙げたのが「ESG経営」です。当社のESG経営の原点は経営理念にあり、今後も変わることはありません。経営理念に示された「誠意と独自の技術をもって、広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「全ての協力者との相互繁栄を期す」という言葉に基づき、ステークホルダーの皆様と協力して新たな価値を次々と社会に提供していくことが当社の使命だと考えています。

当社は長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」において、「気候変動」「資源循環」「安全・安心」の3つの分野で2050年の長期目標を設定しています。国際社会が直面する喫緊の課題である気候変動については、2030年の自社活動のCO<sub>2</sub>排出量ネットゼロを目指して、取り組みを加速しています。資源循環については、サーキュラーエコノミーに向けて製品や梱包材の再生材使用に積極的に取り組んでいます。安心・安全に関しては、当社の事業活動が人や地球に影響を及ぼさないよう化学物質を適正管理しています。さらに、生物多様性保全とネイチャーポジティブ実現のため、本年6月に環境省「生物多様性のための

30by30アライアンス」に参画しました。このアライアンスの趣旨に基づき、当社は事業所ごとに「ササユリの保全活動（天理事業所）」や「ヤリタナゴの繁殖活動（亀山事業所）」など、生物の保護活動や生息地のクリーンアップ活動に取り組んでいます。

加えて、当社は2009年に署名した国連グローバル・コンパクトの「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則を支持し、紛争鉱物問題や人権尊重などの世界的な課題解決に向けた企業の責務を果たしています。

当社は私自身が委員長を務める「サステナビリティ委員会」を半年に一度開催していますが、本年、これらESGの取り組みを加速するため、各テーマに関連する部門で構成する「サステナビリティ分科会」を設置しました。現在、各分科会では各々が設定したアクションプランに基づく活動を進めており、この分科会の活動をさらに活性化して全社目標の早期達成に取り組めます。

当社はこれからも、経営理念に基づくESG経営を推進し、地球上の誰一人取り残さない、サステナブル社会の実現に貢献してまいります。

2024年9月

## マネジメント：サステナビリティ・マネジメント

### シャープのサステナビリティ方針

#### サステナビリティに対する基本的な考え方

シャープは、経営理念において掲げている「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「全ての協力者との相互繁栄を期す」という創業以来の精神のもと、社会やステークホルダーからの期待や要請に応え、当社と社会の相互の持続的発展を目指すことをサステナビリティに対する基本的な考え方としています。

関連情報：> [経営理念・経営信条](#)

#### 企業行動憲章・行動規範

経営理念・経営信条を具体化するために、グループ企業の行動原則として「シャープグループ企業行動憲章」を、全ての役員・従業員の行動の規準として「シャープ行動規範」を定め、シャープグループにおける基本方針として徹底し、あらゆる業務遂行において、法令遵守はもとより高い倫理観をもって適切かつ真摯な行動に努めています。

シャープグループ企業行動憲章・シャープ行動規範は、シャープ（株）の他、主要な国内外の子会社および関係会社の取締役会の決議の基、これらを適用しています。また、適用している海外拠点においては各国語に翻訳し、徹底・浸透を図っています。

シャープグループ企業行動憲章・シャープ行動規範は、その内容の改定要否を毎年検討しています。

関連情報：> [シャープグループ企業行動憲章](#)  
[シャープ行動規範](#)

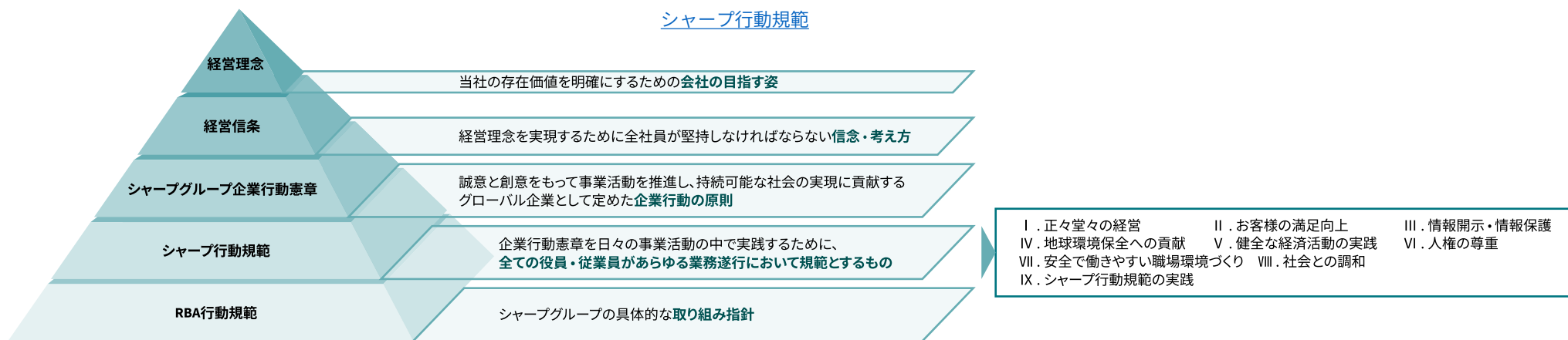
#### RBAへの参加

シャープは、国際的な基準に沿ってグローバルサプライチェーンにおける社会的責任をより一層果たしていくため、2021年12月にRBA（Responsible Business Alliance）に加盟しました。

RBAのビジョンとミッションを全社で共有するとともに、RBAが策定する「RBA行動規範」を具体的な取り組み指針として、自社およびサプライヤー工場におけるリスクの特定と改善を進めています。

関連情報：> [Responsible Business Alliance](#)  
[RBA行動規範](#)

#### ■ サステナビリティ方針の体系



## マネジメント：サステナビリティ・マネジメント

### シャープのサステナビリティ方針

#### 行動規範浸透の取り組み

シャープ行動規範への理解を一層深め、全役員・従業員一人ひとりが行動規範に則った正しい行動をしていくことを目的として、日本国内においてはeラーニング形式にて「シャープ行動規範に基づくコンプライアンス学習」を毎年実施しています。

2023年度は、行動規範に則った業務遂行、内部通報制度の周知、労働時間や賃金および福利厚生など労働・人権関連、景品表示法の遵守、インサイダー取引規制、会計不正の防止などコンプライアンス関連、情報セキュリティや秘密情報管理における課題と対処など幅広いテーマで実施し、シャープ（株）、国内関係会社、労働組合などを対象に約18,000人が受講しました。また、海外の各拠点においても行動規範の周知を図っており、その一助としてeラーニングの学習コンテンツを配付して、グローバルに徹底しています。

今後もコンテンツを拡充しながら継続して実施し、従業員の理解の浸透と、問題発生を未然に防ぐマインドの醸成を図っていきます。なお、これらの取り組みは「内部統制に関する基本方針」に基づく社内施策として実施し、代表取締役社長 兼 CEOが委員長を務める内部統制委員会および取締役会に報告しています。

# マネジメント：サステナビリティ・マネジメント

## サステナビリティ戦略と推進体制

シャープは、サステナビリティに対する基本的な考え方に基づき、2015年9月に国連で採択され、企業へも大きな期待が寄せられている持続可能な開発目標（SDGs）の達成へ貢献することを中長期ビジョンに据え、取り組みを進めています。

2018年度には、この中長期ビジョンの実現に向けて「事業や技術のイノベーションを通じた社会課題の解決」と「サステナブルな事業活動による社会・環境に対する負荷軽減」を両輪として、SDGs達成に向けた貢献を目指すことをサステナブル経営の基本戦略としています。

こうした取り組みを通じ、脱炭素社会の実現や医療・介護問題の解決、労働力不足の解消、多様なライフスタイルの実現など、現代社会が直面する様々な社会課題の解決に貢献することで、人や社会に寄り添い、常に新たな価値を提供し続ける「強いブランド企業 SHARP」の早期確立を目指しています。

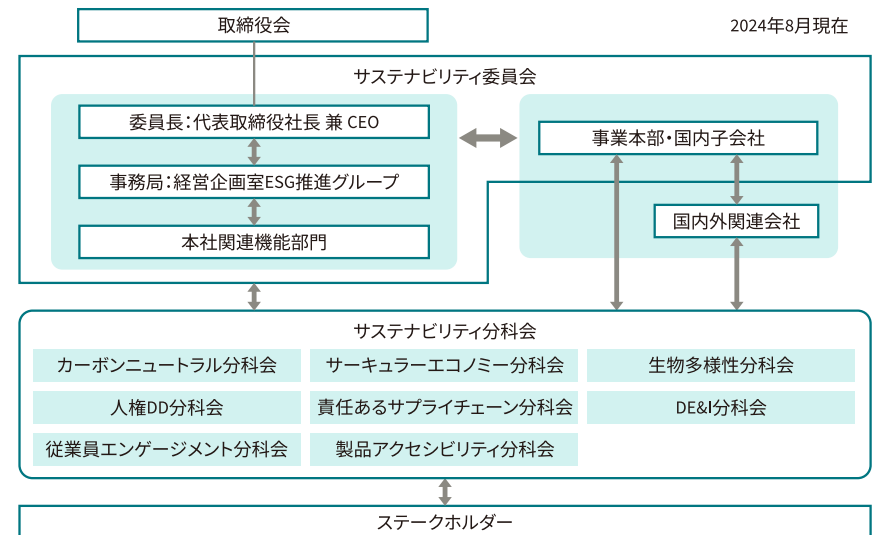
シャープは、これらの戦略を実行施策レベルに落とし込み、PDCAサイクルでマネジメントしていくため、代表取締役社長兼 CEOを委員長とし、経営幹部、環境・人事・調達などの本社機能部門、事業本部・子会社などで構成する「サステナビリティ委員会」を設置し、ビジョンや方針の徹底、各種施策についての審議・推進、社会課題に関する最新動向の情報共有などを実施しています。また、重要な方針や決定事項については、取締役会に報告しています。さらに、2024年度からはサステナビリティの主要なテーマに関する「サステナビリティ分科会」を設置し、取り組みを加速しています。

今後も、SDGs・ESG分野の取り組みを継続して強化し、当社のESGレーティング・格付の向上を図りながら、持続的成長を支える強固な経営基盤を構築し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

### ■ サステナブル経営の基本戦略



### ■ サステナビリティマネジメント推進体制



## マネジメント：サステナビリティ・マネジメント

### イニシアティブへの参加

シャープは、グローバル社会の一員として、国際的な指針や規範を尊重しながら企業経営を行っています。

#### 国連グローバル・コンパクト

2009年9月に「国連グローバル・コンパクト」に署名参加しました。国連グローバル・コンパクトの「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を踏まえて各種施策を展開しています。



関連情報：> [United Nations Global Compact](#)

> [グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン](#)

#### RBA (Responsible Business Alliance)

2021年12月にグローバルサプライチェーンにおいて社会的責任を推進するRBAに加盟し、RBAのビジョンとミッションの支持を表明しています。

関連情報：> [Responsible Business Alliance](#)

#### RMI (Responsible Minerals Initiatives)

2021年12月に責任ある鉱物調達のための国際的なイニシアティブであるRMIに加盟し、鉱物調達におけるデュー・ディリジェンス活動を積極的に行っています。



関連情報：> [Responsible Minerals Initiative](#)

#### 一般社団法人 ビジネスと人権対話救済機構 (JaCER)

2022年10月に「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に準拠して苦情処置プラットフォームを提供するJaCERに加盟し、グローバルサプライチェーンにおける苦情処理メカニズムの整備を進めています。



関連情報：> [JaCER](#)

#### その他の主なイニシアティブ

- 一般社団法人 日本経済団体連合会
- 一般社団法人 日本電機工業会 (JEMA)
- 一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)
- 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)
- 日本機械輸出組合 (JMC)
- 一般社団法人 太陽光発電協会 (JPEA)

## マネジメント：サステナビリティ・マネジメント

### イニシアティブへの参加

シャープは、グローバル社会の一員として、国際的な指針や規範を尊重しながら企業経営を行っています。

#### TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）

2022年8月にTCFDの提言への賛同を表明するとともに、TCFDのフレームワークに沿って、気候変動に関する情報開示の拡充を図っています。



関連情報：> [TCFD](#)

#### SBTi（Science Based Targets イニシアティブ）

2024年3月にパリ協定に準拠した科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標の「SBT 1.5°C」認定を受けています。



関連情報：> [SBTi](#)

#### GXリーグ

2023年4月に経済産業省が推進する「GXリーグ」に参画しました。産・官・学の連携により、温室効果ガスの排出削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会（経済と環境および社会の好循環）を目指します。



関連情報：> [GXリーグ](#)

#### サーキュラーエコミーに関する産官学のパートナーシップ

2023年12月に経済産業省が推進する「サーキュラーエコミーに関する産官学のパートナーシップ（サーキュラーパートナーズ）」に参画しました。産官学の連携を深め、サーキュラーエコミーの実現を目指します。



関連情報：> [サーキュラーパートナーズ](#)

#### TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）フォーラム

2024年8月にTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の理念に賛同し、その活動を支援するTNFDフォーラムに参画しました。本フォーラムへの参画を通じて得られる知見を生かし、自然関連の情報開示の準備を進めます。



関連情報：> [TNFDフォーラム](#)

#### 生物多様性のための30by30アライアンス

2024年6月に環境省が推進する「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加しました。事業活動や環境社会貢献活動を通じて、生物多様性の保全、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを拡充し、30by30目標の達成に貢献を目指しています。



関連情報：> [30by30アライアンス](#)



## マネジメント：マテリアリティ（重要課題）

### マテリアリティの特定とモニタリング

SDGsやパリ協定<sup>※1</sup>などのグローバルでの社会課題解決を目指した国際的な中長期目標が相次いで発表され、またグローバルサプライチェーンにおける強制労働などの人権問題への関心が集まる中で、企業のサステナビリティ取り組みへの期待はより一層高まっています。

こうした背景から、グローバルな社会課題解決への貢献とシャープグループの中長期的な成長との両立の視点から、サステナブル経営推進のためのマテリアリティ（重要課題）を特定し、取り組みを進めています。

マテリアリティの特定に当たっては、当社の経営理念・経営信条や中期経営方針に加えて、国連グローバル・コンパクト、SDGs、RBAのビジョン・ミッションなどの国際的なガイドラインや原則、GRI<sup>※2</sup>、SASB<sup>※3</sup>、ISSB<sup>※4</sup>やESRS<sup>※5</sup>などの国際的な非財務情報開示基準、さまざまなステークホルダーからの意見や期待、ESGレーティング・格付機関などによる評価結果などを踏まえ、マテリアリティを抽出しています。

#### ■ マテリアリティの特定プロセス

##### 経営方針・事業戦略

・ 経営理念 ・ 経営信条 ・ 中期経営方針 など

##### 国際的なガイドライン・原則

・ 国連グローバル・コンパクト10原則 ・ SDGs ・ ISO26000  
 ・ ISSB、ESRSなどの情報開示基準 ・ GRI、SASBなどの情報開示ガイドライン  
 ・ 国連世界人権宣言 ・ 国連ビジネスと人権に関する指導原則  
 ・ RBAのビジョン・ミッション ・ その他業界の行動規範 など

##### ステークホルダーからの意見や期待

・ 対話を通じたステークホルダーの意見  
 ・ ESG評価機関などによる各種評価結果 など

抽出したマテリアリティは「環境・社会への影響の大きさ」と「企業財務への影響の大きさ」という2つの視点から、全社レベルで優先的に取り組むテーマを特定しています。

特定された優先取り組みテーマについては、施策ごとの目標・GOAL、評価指標（KPI）、実行計画などを設定し、半年に一度開催される「サステナビリティ委員会」や「サステナビリティ分科会」、その他全社会議等において実績や取り組み状況のレビューを行っています。

※1 2015年にパリで開催された第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択された、気候変動抑制に関する多国間の国際的な合意協定。世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求することが掲げられている。

※2 Global Reporting Initiative（グローバル・レポートニング・イニシアティブ）

※3 Sustainability Accounting Standards Board（サステナビリティ会計基準審議会）

※4 International Sustainability Standards Board（国際サステナビリティ基準審査会）

※5 European Sustainability Reporting Standards（欧州サステナビリティ報告基準）



## マネジメント：マテリアリティ（重要課題）

### マテリアリティの特定とモニタリング

重要課題（優先的に取り組むテーマ）	重点取り組み	2024年度KPI	掲載ページ
気候変動への対応	事業活動に伴う温室効果ガス排出の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年 自社活動のCO<sub>2</sub>ネットゼロ</li> <li>温室効果ガス排出量：33.3%削減（基準年：2021年度）</li> </ul>	P.035
	製品のカーボンニュートラル推進（省エネとカーボンフットプリント）		P.037
資源の再利用と循環経済の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品のサーキュラーエコノミー推進（ヴァージンプラスチック使用量削減）</li> <li>回収プラスチックの品位向上、混合プラスチック率の低減</li> <li>ポリスチレン（PS）の高付加価値化検討</li> <li>製品への再生プラスチックの採用拡大</li> </ul>		P.044、047
汚染物質管理	事業活動に伴う廃棄物排出の削減	最終処分率：0.5%未満	P.043
	揮発性有機化合物（VOC）の排出量削減	VOCの大気への排出量：204t以下（基準年：2010年度）	P.059
水環境・資源の管理	受水量原単位の改善	受水量原単位改善率：10%（基準年：2021年度）	P.050
人材（人材育成、DEI、安全衛生、人権など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の人材育成に向けた教育体系の拡充</li> <li>新規事業創出マインドを引き出すための風土づくり</li> </ul>		P.076
	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍推進法に基づく行動計画の推進</li> <li>障がい者雇用率の維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新卒採用の女性比率：技術系15%、文系50%</li> <li>管理職の女性比率：5%以上</li> <li>女性社員の育児休職復職者の12か月後定着率：95%以上</li> <li>障がい者雇用率の維持：2.5%台の維持</li> </ul>	P.081
	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大災害の発生ゼロ／労働災害事故の低減</li> <li>全社健康取り組み「けんこうシャープ」の推進</li> <li>過重労働に伴う健康障害の防止</li> </ul>		P.088
	自社工場ESG自己評価調査・監査の実施による人権デュー・ディリジェンス		P.015
製品・サービスの品質と消費者保護	世界のお客様に良いと認識していただける品質に向けて、信頼性確保の取り組みに加え、商品／ブランドの価値を高める取り組みの強化		P.108
	サービス応対満足度向上	応対満足率：90%以上	P.118
サプライチェーンマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>「CSR・グリーン調達調査」継続実施</li> <li>責任ある鉱物調達の推進</li> </ul>		P.101、106

## マネジメント：マテリアリティ（重要課題）

### 国際基準に沿ったESGリスク評価

シャープは、グローバルなビジネス展開に当たって、事業の拡大と持続可能な社会の構築を両立していくためには、国際基準に則して取り組むことが極めて重要と認識しています。

2015年度から、国際的な業界基準の1つである「RBA行動規範」に準拠した「シャープサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成し、シャープグループの取り組み指針として活用するとともに、国内外の生産工場を対象とした自己評価調査を継続的に実施しています。

この調査は、RBAの自己評価調査票に基づき自社工場の取り組み状況を確認・評価するもので、調査への回答対応を通じて現地担当者の国際基準への理解促進を図っています。

2023年度は、国内外の27生産工場を対象に調査を実施しました。調査後はRBAの評価基準に沿って「Low Risk」「Moderate Risk」「High Risk」の3段階で評価し、各工場に総合評価および分野別評価をフィードバックしています。

また、各工場からの回答内容は、本社機能部門がレビューを行い、取り組みが不十分な点や潜在的なリスクが残る点については、個別ヒアリングを実施するなど、各工場への指導を通じて改善活動を促しています。

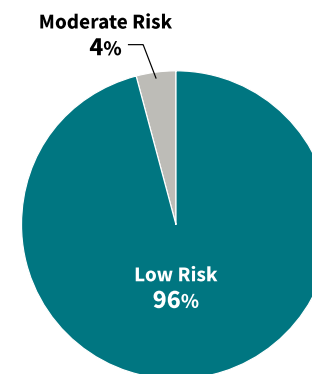
こうした取り組みの結果、2023年度の全生産工場の平均スコアは91.7ポイント（前年は91.2ポイント）と継続しておおむね良好な評価となっています。全体としては総合評価が「Low Risk」となった工場が約96%を占め、グループ全体として直ちに大きなリスクにつながる問題は確認されませんでした。

加えて、リスク評価の実効性の向上と客観性と透明性の観点から、国内外の主要な生産工場についてはRBAのVAP<sup>※</sup>監査を受審しています。2023年度は日本、中国、タイの4工場でVAP監査を受審し、監査において発見された指摘事項への是正措置を実施した結果、いずれの工場もシルバー評価を獲得しています。

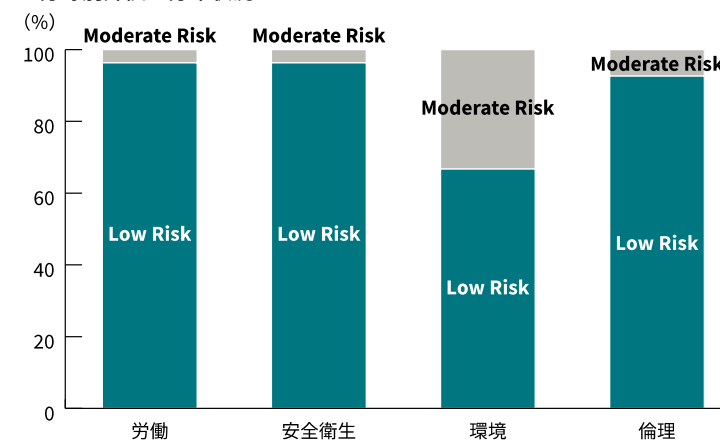
今後も継続して調査・監査を実施するとともに、RBAのリスク評価の仕組みやツールを活用し、取り組みのレベルアップを図っていきます。

※ Validated Assessment Program。RBAが認定する第三者監査会社による現地監査。

■ 総合評価の構成比



■ 分野別評価の分布状況



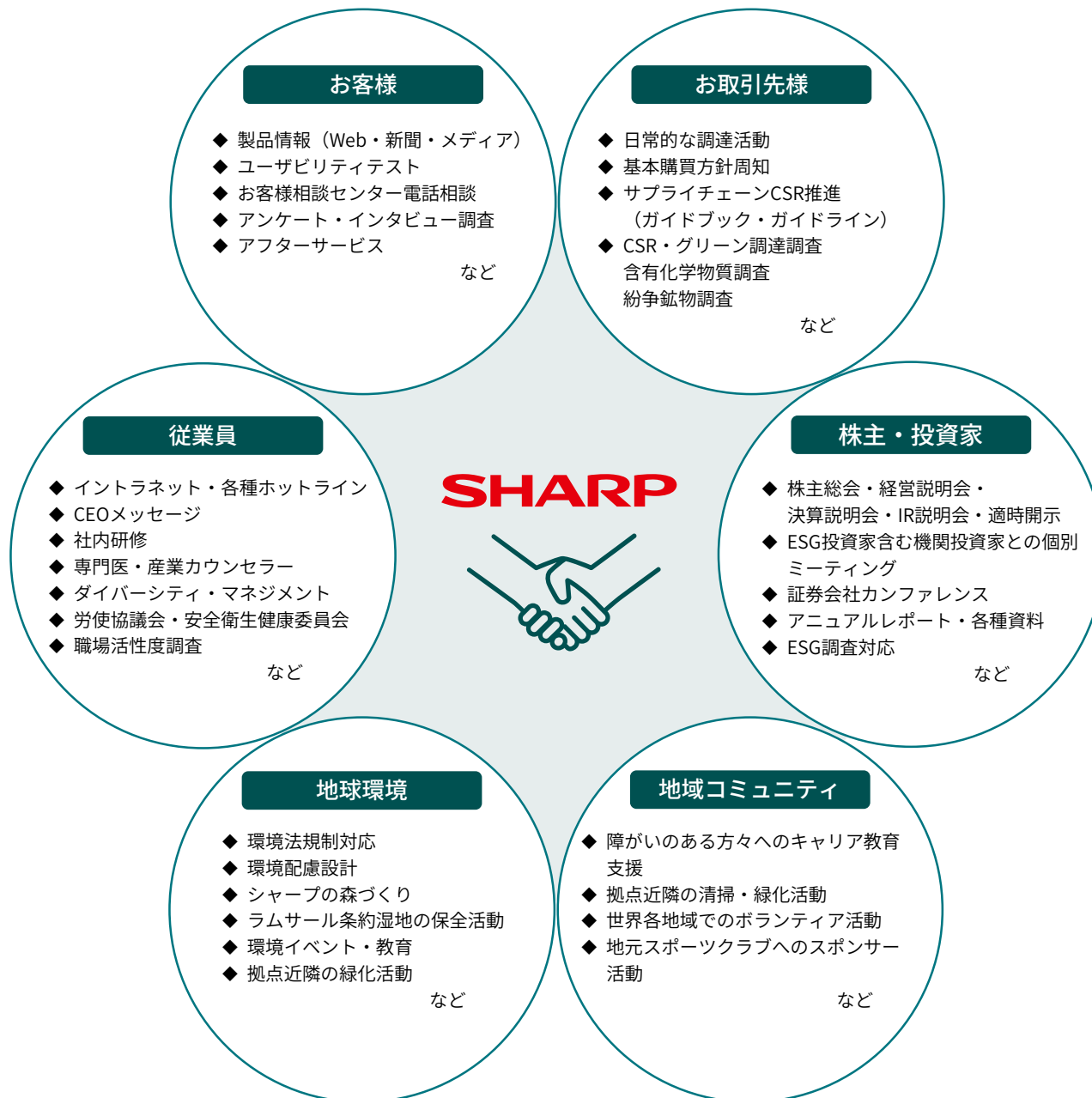
## マネジメント：ステークホルダーエンゲージメント

### ステークホルダーエンゲージメントの推進

当社の経営理念の中で掲げている「株主、取引先をはじめ、全ての協力者との相互繁栄を期す」を実現するために、お客様、お取引先様、地域コミュニティの皆様など多様なステークホルダーに対して情報開示を適切に行っています。

また、昨今のESG投資の高まりを受け、さまざまな機会を通じて、株主・投資家とのコミュニケーションを図り、ESGの取り組みを更に改善しています。

今後も、ステークホルダーの皆様の意見を企業活動に反映して、社会課題の解決への貢献と当社の持続的な成長を目指していきます。



## マネジメント：社外からの評価

### 社外からの評価

サステナビリティ・マネジメントの継続的な強化により、2024年9月現在、シャープは以下のESG インデックスへの選定・ESGレーティングの評価を得ています。

#### FTSE4Good Index Series

ロンドン証券取引所の出資会社であるFTSE Russell社により、環境・社会・ガバナンスの観点から企業の社会的責任に対するパフォーマンスを測定するために設計されたインデックスです。当社は15年連続で選定されています。



FTSE4Good

#### FTSE Blossom Japan Index

FTSE Russell社によって作成された、環境・社会・ガバナンスの対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映したインデックスです。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資のための株式指数として採用しています。当社は8年連続で選定されています。



FTSE Blossom  
Japan Index

#### FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Russell社のESG評価をベースに、一部のカーボンインテンシティ（売上高当たり温室効果ガス排出量）が高い企業については、企業の気候変動リスクや機会に対する経営姿勢の評価を反映したインデックスです。GPIFがESG投資のための株式指数として採用しています。



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

#### S&P/JPXカーボンエフィシエント指数

GPIFが採用した環境株式指数です。環境情報の開示状況、カーボンインテンシティの水準により、当社は2018年から構成銘柄として選定されています。



#### MSCI ESGレーティング

米国のニューヨークに本拠を置く金融サービス企業であるMSCI社によるESGレーティングにおいて、2022年より格付AAを取得しています。



#### MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI社によって作成されたESGインデックスです。業種ごとにESGに優れた企業を選んで構成されています。

#### MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI社によって作成された日本企業を対象としたESGインデックスです。GPIFがESG投資のための株式指数として採用しています。

#### Morningstar日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）

米国モーニングスター社がオランダのエクイリーブ（Equileap）社のデータと評価手法を活用し、ジェンダー・ダイバーシティ・ポリシーが文化として浸透し、ジェンダーに関係なく従業員に平等な機会を約束している企業を選定し、構成される指数です。

#### EcoVadis Sustainability Rating

グローバルサプライチェーンが及ぼす影響を利用して企業の環境的・社会的慣行を改善することを目指し、サプライヤー企業のサステナビリティパフォーマンスを評価するEcoVadis社から評価を受けています。

THE USE BY SHARP CORPORATION OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF SHARP CORPORATION BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED 'AS-IS' AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF SHARP CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF [ISSUER ENTITY NAME] BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.